

10. 河川管理の現状

10-1 河川管理施設

河川改修は昭和28年災害を契機として積極的に行われ、堤防は現在約40%程度の整備となつておる、熊本市内の築堤を進めているところである。また、熊本市内の白川は河床が高いため流域が小さく、樋門樋管の数が少ない。

表 10-1 直轄管理区間堤防整備状況

直轄管理区間延長	施行令2条7号区間延長	堤防延長(km)					
		定規断面堤防	暫定	暫暫定	未施工区間	不必要区間	計
35.6	0.0	14.5	6.2	2.4	12.5	0.0	35.6
比率(%)		40.7	17.4	6.7	35.1	0.0	100.0

表 10-2 直轄管理区間水閘門等河川管理施設整備状況

堰	床止め	排水機場	樋門樋管	陸閘	計
0	0	0	9	1	10

(H11年3月末)

10-2 砂利採取

白川における土砂は、阿蘇山一帯を生産源としていることから、比重が軽く、硬度に乏しく、建設資材として適していないため一般に重要視されていない。そのなかで中流域の砂利と下流域の砂は、人力で採取する程度の土砂が建設資材に活用されており、河川環境や河道維持等を総合的に判断して採取の許可を行っている。

10-3 地域との連携

白川は上流の阿蘇地方から下流の熊本市を1本の川で結んでおり、流域住民は「綺麗で・美しい・魅力ある白川」となるように、一体となって河川清掃や植栽を行っている。このような活動を支援するため、流域交流の拠点として「わくわくランド（白川流域住民交流センター）」を設置し、白川に関する情報を発信するとともに学習、研修、会議等に活用し、河川愛護思想の普及を図っている。



【わくわくランド（白川流域住民交流センター）】

10-4 水防体制

(1) 河川情報の概要

白川では、流域内に雨量観測所（5箇所）、水位観測所（6箇所）を設置し、無線等により迅速に情報収集を行うとともに、これらのデータを使って河川水位予測等を行い、水防活動に活用している。また、これらの情報を重要な防災情報として、（財）河川情報センターを通じて熊本県や熊本市等に提供している。



(2) 水防警報の概要

白川では、洪水による災害が起こる恐れがある場合に、代継橋（熊本市）の水位観測所の水位をもとに熊本県水防本部に対し、河川の巡視や災害発生防止のための水防活動が迅速かつ的確に行えるように水防警報を発令している。

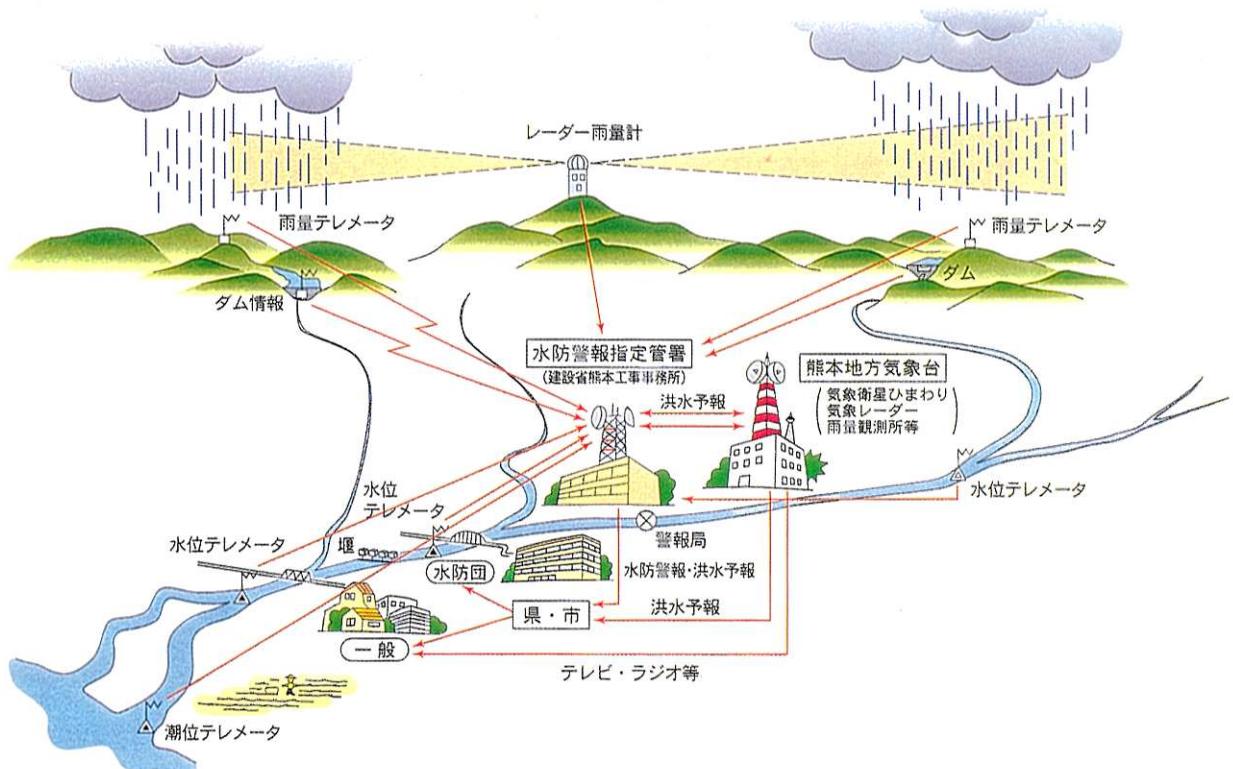
(3) 洪水予報

白川では、水防法および気象業務法に基づいて、「洪水予報」として気象台と共同で流域の雨量や水位の状況をテレビやラジオを通じて一般住民へ知らせている。

(4) 洪水危機管理の取り組み

白川の下流に位置する熊本県の県都である熊本市を対象に、超過洪水対策として堤防強化等のハード対策やハザードマップ作成等のソフト対策を組み合わせた総合的な冠水被害軽減対策をおこなうことを目的として、有識者（熊本大学教授、長崎大学教授）や関係行政機関（熊本県、熊本市）および自衛隊、消防、ライフライン関係機関等で構成される「白川洪水危機管理検討委員会」が設置された。ここでは、さまざまな視点から被害軽減の対策案等の検討を行い、平成12年3月に開催された委員会において「白川洪水危機管理報告書」がまとめられた。

今後は報告を受け、危機管理施策の具体化と実現に向けて「白川危機管理協議会（仮称）」を設置し、今後も検討を重ねる予定である。



白川氾濫シミュレーション

白川氾濫時最大浸水図

